

地域課題解決に向けての 意見交換会報告書

—品川区議会と品川女子学院生徒—



平成30年11月15日（木）品川女子学院

議会報告会等準備会議

【開催経緯】

品川区議会では、「区民に開かれた議会」「区民に身近な議会」を目指す議会改革の一環として平成28年度より「地域課題の解決に向けて」をテーマとし、年1回、品川区議会と品川女子学院の意見交換会を開催しています。

3回目となる今回も、生徒が調査した地域の諸課題のテーマや内容を事前に把握するため、文化祭に参加するなど準備を重ね、11月15日に各クラスの生徒と品川区議会議員で意見交換を行いました。

【開催概要】

日 時 : 平成30年11月15日(木) 16:00~17:30

会 場 : 品川女子学院

参加者 : 品川女子学院生徒(中学1年生)、教諭

出席議員(議会報告会等準備会議^{*1}所属品川区議会議員)

: たけうち 忍、大沢 真一、南 恵子、石田 秀男、鈴木 博、
高橋 伸明、つる 伸一郎、新妻 さえ子、大倉 たかひろ、松永 よしひろ、
芹澤 裕次郎、高橋(し) 議員^{*2}

テ ー マ : 「地域課題解決に向けて」

※1 平成29年5月より品川区議会では、「議会報告会等準備会議」など4会議を立ち上げ、議会改革の取組みを継続しています。

※2 高橋(し) 議員は議会報告会等準備会議のメンバーではありませんが、有志で参加しました。

【主なプログラム】

1. 開会あいさつ (議会報告会等準備会議リーダー たけうち 忍)
2. 課題報告 (品川女子学院生徒)
3. 質疑応答
4. 意見交換

6つのグループに分かれ生徒、議員間で意見交換を行いました。

5. 意見発表

各グループを代表して生徒、議員それぞれ1名より意見発表を行いました。

6. 閉 会

【意見交換の内容および担当議員】

A組) 現実(いま)のち未来(さき)「担当議員:石田(秀)議員、芹澤議員」

B組) 中山戦隊箸レンジャー「担当議員:大沢サブリーダー、松永議員」

C組) 行列のできるアレルギー相談所「担当議員:鈴木(博)議員、大倉議員」

D組) 地域のcircleを広げるために!! ~ヒトリポッチ0~

「担当議員:南サブリーダー、つる議員」

E組) にゃめんなよ!品川ネギ・カブ「担当議員:たけうちリーダー、高橋(伸)議員」

F組) そうだ!空き家へ行こう「担当議員:新妻議員、高橋(し)議員」

【課題報告の概要と質疑応答】

A組) 現実(いま)のち未来(さき)

◆課題報告の概要

私たちは歴史にゆかりのある北品川の学校に通っているのに、そのことについて何も知らないことに気付き、町の人も同じではないかと考え、「北品川の歴史」をテーマにしました。

伝統的なものを未来に残したり、歴史を大切にするためには何をすべきかを考え、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の方にお話を伺ったり、品川歴史館で学ぶ中で北品川駅の再開発を知りました。再開発により駅が高架化され、残されてきた旧東海道の道幅も変わってしまうかもしれないという問題について、踏切利用者、区議会議員、区役所、まちづくり協議会の方にインタビューを行い、賛成・中立・反対に分けて意見等をまとめ文化祭で展示しました。

「再開発をしてしまうと様々な所がなくなり問題も生まれるが、それを一つひとつ解決していくことで前よりもっといいものが生まれると思うのできちんと相談することが大事だと思う」、「様々な人にインタビューし、再開発はたくさんの方々の理解が必要なのだと思う。今まで残してきたものを未来に繋げていくことは大切だが、壊してしまったとしてもたくさんの方が自分の町の未来を考えることが一番大切だと思う」、「北品川の歴史を知りこれからは残していかないといけないと考えたが、旧東海道の道が狭く不便であるというような欠点もあるので慎重に話し合った方がいいと思った」などが私たちの考えです。

北品川を例に、自分の町の未来に残していきたい所やいい所を皆さんに考えてもらいたいと思います。現に、思い出のある公園の桜の木が切られてしまうことになってしまったので、どうにか形にして未来に残したいと思っています。

◆質疑応答

「石田(秀)議員」

- ・旧東海道の道幅や桜の木の伐採のお話がありましたが、道幅を守るにしても、新たに木を植えるにしても、最終的にどういう形にという思いがあると思うので教えてください。

「品川女子学院生徒」

- ・旧東海道の道幅が変わってしまったとしても、江戸時代から残されてきたものであるということを未来の人に知ってもらうために看板を立てたり、当時の道幅を示す線を道路に引いたりして残していければと思います。
- ・何を目的にするかによって答えは変わってくると思います。



B組) 中山戦隊箸レンジャー



◆課題報告の概要

中学生になり、毎日弁当を食べる中で、箸の必要性を初めて感じました。「箸を正しく持てる自信はないが、周りの人の箸の持ち方が気になる」とクラスのほぼ全員が思っていること、「どんなものでも箸で食べるが、歳をとって箸が握りづらくなり食欲がなくなってきました。でも、

箸で食べたい」と言う年配の方のお話を聞き、品川を中心に様々な世代の人に正しく、長く箸を使い続けてもらうことを目標に活動しようと考えました。箸の持ち方や歴史を学ぶため、日本箸道協会や箸メーカーである兵左衛門の方に話を伺いました。また、昔は家族団欒の中で箸の使い方を自然に学んでいたことを福栄会や区立保育園で伺いました。理学療法士協会では箸使いには筋肉と姿勢が関係していることを学びました。幼稚園への取材で、水道の自動化や電子機器の普及により紙をめくるなど指先を使う機会が減ったことが、全身の姿勢にも関係していることを知ったため、箸を使う際に必要な筋肉を意識し、姿勢を正すためのオリジナル体操を作成し、福栄会で実践しました。ボタン付けや水引を使用した箸置きづくりも行い、指先を自然に使えるよう考えました。キッズガーデン北品川では、園児に箸指導を行い楽しく取り組んでもらうことができました。力の加減が分からない、手先が動きづらいといった新たな課題を解決するために、遊びの考案や改善を行い、今後も「中山戦隊箸レンジャー」として大崎ゆうゆうプラザやキッズガーデン北品川で継続した活動を行います。

◆質疑応答

「松永議員」

- ・オリジナル体操や箸指導など、お年寄りや子どもとの交流内容について教えてください。

「品川女子学院生徒」

- ・オリジナル体操では指先を動かしたり、肩を回したり、足の筋肉や背骨を伸ばしたりと短時間で、足の不自由な方でも座ったままでできるものを行いました。他にも箸の歴史や昔ながらの曲で反射神経等を鍛えるものを行いました。
- ・自然に指先を使うことが減っていると伺っていたので、園児の方には箸の指導のほか、箸で物をつまみ皿から皿へ移す作業、ボタンを縫いつけたフェルトを使い、どちらが早くボタン付けができるかを友達と競争するもの、水引での箸置きづくりと4つのブースを用意し、遊びの中で楽しく指先が使えるよう工夫しました。

◎組) 行列のできるアレルギー相談所

◆課題報告の概要

アレルギーを持っていたり、持っていたことがある人がクラスの3分の1以上いたため、「食物アレルギーを持つ人が暮らしやすい町づくりを提案する」をテーマにしました。保護者の方から、アレルギーへの理解と除去食で子どもが我慢していることを知ってほしいという声が多くあったため、正しい情報を伝え理解してもらうことが大切だと思いました。

文化祭では、東京海洋大学、篠原クリニックで伺ったアレルギーが起こる仕組み、日本ハム、東洋水産、ナチュラルハウスで伺った品川で手に入るアレルギー対応食品を資料にまとめたほか、米粉パン専門店「米魂」で自分たちでも作れるアレルギー対応食品を学び、レシピ動画を作成して展示しました。また、昭和大学で話を伺い、エピペン®講習会や小さい子どもにも楽しんでもらうためのアレルギークイズを行ったり、アレルギーカードの配布、カフェテリアで提供される食べ物の成分表示などを行いました。

調査する中でアレルギーについて知らない人が多かったので、町の人が理解することが大切だと考え、品川区の飲食店でも成分表示を義務化することを提案します。



◆質疑応答

「鈴木（博）議員」

- アレルギーに関し調べ・まとめ・提案する過程は大事なので、とてもいいことだと思いました。これをいろいろなことに応用していただきたいと思います。熱意があって提案内容も建設的でよかったのですが、「こういうものがアレルギーです」とみんなに簡単に説明できると発表がよりよくなると思います。

D組) 地域の circle を広げるために!! ~ヒトリポッチO~

◆課題報告の概要

誰にも気づかれず死後数週間たって発見される場合もある孤立死は、高齢者に多いと思われがちですが、20代でもその可能性があります。品川区役所では昨年度4人の孤立死を確認していますが実施はもっと多く、今年度は猛暑の影響で昨年度より増加しています。私たちは「孤立死を未然に防ぐ」をテーマに、品川区社会福祉協議会等への取材や大崎ホームヘルプサービス小規模多機能型居宅介護事業所「おもてなし」が運営する「きたいちカフェ」（北品川1丁目）の見学を通して学んだことを元に、世代を超えて交流できるイベント



「Smile 白ばらカフェ」を考案しクラスの仲間と作り上げました。

カフェのコンセプトは「世代を超えて笑顔の輪を広げる」で、孤立した生活態度を改善するため地域の集いの輪を作ります。なるべく暖色を使ってポスターを作成したり、カフェには折り紙で作った薔薇を多く飾り、テーブルの上には昔のおもちゃや造花を置きました。当日は、会話が弾み笑顔があふれ、利用者の方にも満足していただきました。

この経験を通し地域を拠点に人々が安心して集うことができる場の大切さを学びました。孤立死を防ぐために誰でもできることは、いち早く異変に気付くことで、昼間でも電気がついたままになっている、何日も同じ洗濯物を干したままである、異臭がする、家に閉じこもってほとんど外に出てこない、顔色が悪く具合が悪そうに見える、いままで挨拶をしていたのにしなくなったりするなどが挙げられます。この活動をするまで、孤立死とはかけ離れた生活をしていると勘違いしていましたが、孤立死は身近で、孤立した生活が習慣づいてしまうと、将来自分もなる可能性を秘めていると思いました。

11月18日に大崎ゆうゆうプラザで世代間交流イベントを開催しますが、今後は、地域を拠点に世代間交流イベントを継続して開催していきたいと思っています。イベントを通し、孤立死への見解や世代間交流を広め、安心して暮らせるまちづくりをしていきたいです。

◆質疑応答

「つる議員」

- 孤立死はとても大事なテーマでイギリスでは大臣を置くぐらいの課題となっています。取り組みを継続していくということですのでごく安心したのですが、一方で積極的に孤独や孤立を好む方もいますのでそういう方を外に出すのは難しいと思います。そういう方にはどのようなアプローチをすればいいと思いますか。

「品川女子学院生徒」

- 東京大学の教授にインタビューをしたときに、そういう方がいることを聞きました。働きかけによりプライバシーがなくなったりする問題もある一方、ガス、新聞配達など常に町中を見ている人たちが、少し周りを見て、異変があれば連絡をする取り組みをしている地域もあったので、それも参考に自分たちでさらなる解決策を考えていければと思いました。
- 取材に行った「きたいちカフェ」で実際にあったのですが、銭湯等に貼ったポスターをみて来てくださっている方がご友人を誘って来てくださったので、積極的に宣伝などをすることも大切だと思います。
- 品川区社会福祉協議会への取材で、一人暮らし高齢者の方の家のドアにカードを差し込み3日後にカードが無くなっているかどうか確認をすることで、孤立死の可能性が高いかどうか判断する方法を知りました。

E組) にやめんなよ! 品川ネギ・カブ

◆課題報告の概要

江戸野菜である品川ネギ・カブの知名度を上げ、伝統を残し続けることを目標にしました。ビルの多い品川でも昔はネギやカブが栽培されていたこと、伝統として残っているのにあまり知られていないことから、その「特徴・歴史・食べ方を伝え、興味を持ってもらう」ことをテーマに掲げました。品川ネギは九条ネギ

に似ていますが現存していないことが分かったため、江戸野菜の歴史や知名度の調査のほか、品川カブを中心に宣伝キャラクターの作成や実際の栽培、レシピ作りなどを行いました。栽培にあたっては夏休み中も毎日水やりを行い、11月10日に収穫と品評会に向けた2回目の種まきをしました。レシピ作りではクックパッドを参考に、品川カブをよりおいしく食べられるよう新たなメニューを考案し、代用した普通のカブで調理・試食を行い、特においしかった3品をミニブックに掲載して紹介しました。毎年12月23日に品川神社で行われる品評会には、地元の小学校や団体から立派な品川カブが出品されますが、優勝を目指し栽培を行っています。これからもより多くの人に知ってもらうための活動を行い、品川カブを植え続けます。

◆質疑応答

「高橋(伸) 議員」

- 品評会では上位を目指して頑張っていたいただき、品川カブを広めていただきたいと思います。品川カブの種を持って帰って、家で育てている方はいらっしゃいますか。

「品川女子学院生徒」

- 現在は、学校の教室の外でプランターを使いクラスで育てています。

F組) そうだ! 空き家へ行こう

◆課題報告の概要

空き家の問題点として、景観の悪化、防犯性の低下、防災性の低下、不衛生、近所迷惑が挙げられました。2023年には高齢化の進行により空き家率は21%にもなると言われ、



5分の1が空き家になるということになります。全国的に深刻化する空き家問題は品川区も例外ではないと考え、品川区役所、大田区役所、Welns（簡易宿所運営会社）、うなぎのねどこ（北品川商店街の空き家を改装したコミュニティスペース）に取材し、学んだことを対処法と活



用法にまとめました。対処法としては危険な空き家の情報を収集する、家主が変わって取り壊すことがある、空き家の持ち主と利用したい人とのマッチングをする、空き家相談窓口を設置し早く対処できるようにすることです。活用法としては子どもの遊び場として提供する、宿泊施設とする、教室を開くなどです。教室は茶道教室・プログラミング教室・生け花教室を開いています。

私たちは空き家のみをなくすのは難しいと考え、再利用する方向で空き家と少子化問題を同時進行で解消しようと調査を進めました。全国で少子化が増えている理由に、子ども預ける保育施設が少なく働けなくなる、子どもを産んだ後に自分の自由が奪われそうという女性の意見があったため、空き家を保育施設にしようと考えました。認可外保育園の場合、保育士免許を1人が持っていれば他の数人は免許がなくても働けるため、保育士が足りない現在に対応した保育施設を増やすことが可能だと考え、実現したいと思っていますので、ぜひ品川区議会議員の方にも力をお借りしたいです。

◆質疑応答

「新妻議員」

・実際に品川区内の空き家をご覧になりましたか。

「品川女子学院生徒」

・空き家をリフォームしたところには取材に行かせていただいたのですが、空き家そのものは見ていないです。

「新妻議員」

・品川区内にはたくさん空き家があり、すごく大変な状況になっている所もあるので、機会があったら見ていただいて、ぜひみなさんのお知恵をいただきたいと思います。

【意見発表での各意見「品川女子学院生徒および区議会議員」】



A組) 現実(いま)のち未来(さき)

「品川女子学院生徒」

北品川と関連して「品川駅西口駅前広場の将来の姿」という資料をもらい、「今だけ 私だけ ここだけ」がないと人は集まってこないことが分かりました。品川駅では持続可能なまちづくり、住み続けられるまちづくりをコンセプトにしていることが分かりました。

「芹澤議員」

やはり再開発、将来のことと言うのは、これからを担う子どもたちや学生のことになります。再開発は地元でもあることだと思いますので、ぜひみなさんでしっかりと自分の住んでいる地域・通っている学校・会社近くの町のことを共有して勉強していただき、最終的には選挙に行って、自分の声を届けていただければと思います。

B組) 中山戦隊箸レンジャー

「品川女子学院生徒」

吉野家では割り箸とプラスチック箸の両方を置いてあると聞いて、割り箸は新しい箸を使いたい人のために置いてあることが多いと思いますが、プラスチック箸は資源を無駄にしないためにも必要だと思いました。時代が進むごとに人の価値観は変わっていくので、今は正しいと言われるお箸の持ち方も、今後どうなるか分かりません。多くの人の意見を聞いてこれからどうしていけばいいかを考えていきたいと思います。

「松永議員」

資源の関係で、プラスチック製、木製、どちらの箸を使用するのがいいのか、そもそもなぜ箸ができたのかについては、今後勉強していただければと思います。いろいろ出た意見を1つにまとめて発表されたのも素晴らしかったです。



C組) 行列のできるアレルギー相談所

「品川女子学院生徒」

アレルギーがある人の食べたい物や店を調査して、希望の多かった店とコラボしてアレルギー対応食を作り、販売したらアレルギーのある人もない人も食べられるのでいいと思いました。アレルギー対応の食品を置く店等がどこにたくさんあるか分からないので、自分たちで調べてその地図を作れば困らなくていいかなと思いました。



「鈴木(博) 議員」

様々な食品を調べたり、アレルギー対応食品を扱う店をマッピングしたりするなど建設的な提案も出て、非常によかったです。10年前は「食べるな」だった食物アレルギーの概念が、今は「いかに食べるか」と180度変わってきているので、今考えていることがすべてではないですし、みなさんが研究する中で様々な先生や専門家に話を伺ったと思いますが、その方々の仰っていることがすべて正しいとは限りません。複数の意見を聞いて自分の言葉で一度消化し、まとめて自分なりに話せるように、自分なりの考え方を確立できるように、人の話を鵜呑みにせず、みなさんの柔軟でまだまだ伸びる新鮮な柔らかい頭脳でいろんなことを身につけていただければいいなと思います。

D組) 地域のcircleを広げるために!! ~ヒトリボッチO

「品川女子学院生徒」

孤立死はひとり暮らしだけでなく、複数でいても起こってしまうことが分かったので、インタビューなどで、さらに自分たちのテーマを深め、継続した活動が行えればいいと思いました。

「南サブリーダー」

中学1年生で「孤立死」にフォーカスすること自体が素晴らしいと思いました。調査先も区内にある社会福祉協議会という発想は出てくるのかなと思っていましたが、東大の先生に



まで伺いに行っているのには驚きました。孤立死につながる暮らし方でいいのか、地域にそういう方がいらっしゃるといことがどうなのかという中で、活動を継続していくということでした。孤立死のない社会にするにはどうすればいいかという概念でこれから20~30年生きていく、町を見ていくのが大事ではないかという話もしました。非常によく研究され、受け止め方もよく、いい話し合いができた時間でした。

E組) にゃめんなよ! 品川ネギ・カブ

「品川女子学院生徒」

未定ではありますが、年内以降も品川カブを育てて品評会出せればいいなと思います。

種がたくさんあまっているので、クラスの育てられる人に配って家で育ててもらうのもいいかなと思います。

「たけうちリーダー」

自分たちで毎日のように水やり等をしてカブを育てていること、レシピを作成して提案していることも素晴らしいと思いました。何より品評会に出そうと思われたことがすごいですし、来年度以降もできれば継続していきたいという強い思いもいただきました。物事は3年ぐらい続けてみるのが大事だと思います。今後、区内の店や品川区役所の食堂で、みなさんのレシピとコラボしたものが出てきたら必ず食べますので、期待したいと思います。



F組) そうだ! 空き家へ行こう



「品川女子学院生徒」

広島で脱獄した人が空き家を利用して、それが北品川で起きていたら恐ろしいと思いました。

「新妻議員」

すごく調査をされているなと思いました。空き家の活用のお話もさせていただきまして、最後に皆さんが学んでよかったことをお聞きしましたが、空き家が犯罪に使われ、身近に起こったら怖いという話もあり、今後ますます空き家が増えていくので気をつけていかないといけないなと私も勉強になりました。これからもみなさんの若い知恵や声をいただいて、私も品川区内でできる取り組みを行っていきたいと思います。

【今後に向けて】

当日は、参加した品川女子学院の生徒24名からタブレットを用いた課題報告を受け、地域課題に対して活発に意見交換を行うことができました。今回、意見交換を行った各課題について、さらに調査・研究が進められ、皆さんが自らの意見を持ち、社会に貢献できる人材として大きく成長されることを楽しみにしています。

品川区議会では若い世代の方の貴重な意見として真摯に受けとめ、こうした取り組みを継続的に行い、引き続き区民に「開かれた議会」、「身近な議会」を目指し活動してまいります。